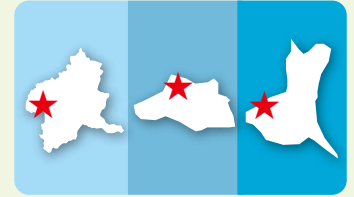


中村農園、石井農園、須藤農園
(群馬県長野原町、埼玉県美里町、茨城県結城市)

実証面積：7.5ha

実証課題名 需要家起点の農業支援サービスによる、加工業務用野菜のフード・バリューチェーン横断型の持続的生産体系の実証

構成員 (株)日本能率協会コンサルティング、中村農園(耕人会グループ)、石井農園(埼玉農場)(耕人会グループ)、須藤農園、デリカフーズ(株)、(株)メディカル青果物研究所、BASFジャパン(株)



背景・課題 ○関東近郊の業務加工用キャベツにおいては、圃場条件、出荷条件等の課題から、規模拡大及び低コスト化のための機械化及びスマート技術の普及が進んでいない。
○地力や生育状況のデータを収集・分析するために逐ードローンを飛ばすことには、小規模分散型の圃場では、労働生産面で限界がある。

本実証プロジェクトにかける想い



キャベツ畑の風景

業務加工用野菜の大口需要家を起点として、キャベツ産地リレーを構成する契約生産者を対象に、シェアリング等農業支援サービスを提供し、サービス利用側(生産者)・サービス提供側(需要家)の両方が Win-Win となるサービスのモデルを確立することにより、機械化やスマート技術の導入・普及による生産基盤の安定化を狙いとする実証を行います。

併せて、衛星画像データを露地野菜に活用する際の適応精度・利用方法等の技術化を狙いとする実証を行います。

目 標

(慣行区対実証区)

- 地力マップ + 可変施肥機の導入により化学肥料使用量 10% 削減
- キャベツ収穫機導入により 10a 当たり収穫作業時間 20% 削減
- 10a 当たりのキャベツ利益:16% 増加(総コスト:4% 削減)
- 農業支援サービスモデルの確立

実証する技術体系の概要

- 要素技術 ①衛星画像地力マップ+GPSナビキャスト(可変施肥) ②衛星画像による生育把握 ③キャベツ収穫機(シェア利用) ④農業支援サービス

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「見られる」ポイント								①	②	③	④	

<p>①可変施肥システム</p> <p>地力マップ</p>	<p>②衛星画像による生育把握</p> <p>生育マップ</p>	<p>③キャベツ収穫機</p>	<p>④農業支援サービス</p>
-------------------------------	----------------------------------	-----------------	------------------

問い合わせ先

- ▶実証代表・進行管理役 (株)日本能率協会コンサルティング 金子恭久・柳沼草介
- ▶視察等の受入について yasuhisa_kaneko@jmac.co.jp(金子) sosuke_yaginuma@jmac.co.jp(柳沼)